

平成31年度 全国学力・学習状況調査及び県調査の武雄市結果の公表にあたって

武雄市教育委員会

武雄市は平成24年度から学校ごとに公表した学習状況調査の結果をまとめて、市のホームページで公表してきました。今年度も保護者・地域住民の皆様には学校の現状と取組、武雄市の取組が分かっていただけるように公表を行います。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組めます。保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、武雄市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思えます。

児童、生徒の学力の向上には、学校と家庭や地域との連携が必要です。今回学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は小学校6年生、中学校3年生は全国学習状況調査、その他は佐賀県学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は、今年度から国語、算数(数学)共にこれまでのA問題、B問題の区別なく「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題調査となりました。また、今年度は、中学3年生において、3年に1度の英語の「話すこと」調査も実施されました。

各学校のホームページには、学校ごとの分析と改善に向けた具体的な取組を掲載しておりますので、あわせてご覧ください。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H27 入学 現 5年	60.4 (0.92)		58.7 (0.90)	
H26 入学 現 6年	63.9 (0.96)	55 (0.86)	66.0 (0.93)	53 (0.80)
H31 正答率の全国比		(0.86)		(0.80)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H31 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○学習状況調査より

- ・5年生の正答率は、国語「知識・理解、技能」が県正答率より上回っていて、算数「技能」が県平均と同等である。一方、国語「話す・聞く」「書く」「読む」、算数「考え方」「知識・理解」は県平均を下回った。詳しく内容を見ると「漢字の読み・書き」「主語の捉え方」や算数「分数の計算」「折れ線グラフ」が県平均を上回っているが、国語「話し合いの進め方」や算数「活用に関する問題」が県平均より下回っている。
- ・6年生の正答率は、国語、算数ともに県平均を下回っている。特に、課題が見られるのは国語「話す・聞く」算数「数量や図形についての技能」である。
- ・上記のことより、5年生は漢字や計算など継続的に努力を要するものは県平均同等もしくはそれ以上である。6年生は、学力の二極化の傾向が見られる。

○児童質問紙より

- ・以下の項目は、5、6学年とも県平均より上回った主な内容である。※()内は、県平均
 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」では、5年76.9%(74.2%)、6年85.0%(76.9%)である。
 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」では、5年61.5%(57.9%)、6年85.0%(65.6%)
 「今住んでいる地域の行事に参加している」では、5年61.5%(44.5%)、6年75.0%(49.5%)である。
- ・以下の項目は、5、6学年とも県平均より下回った主な内容である。※()内は、県平均
 「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」では、5年69.2%(71.4%)、6年65.0%(73.1%)
 「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」では、5年46.2%(60.2%)、6年55.0%(62.9%)である。
- ・上記より、地域の行事への参加状況は、保護者や地域の方々の協力もあり、昨年度に引き続き県平均を上回ることができている。しかし、授業中に学習したことを日常生活に活かしたり、学習する意味を理解したりしている児童が少ない。授業中の学び合い活動等を通して、児童が考えを交流し、お互いを高め合う状況を作り出すことで、魅力ある授業作りと主体的、対話的で深い学びにつながる指導法に努めていきたい。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

1 全学年で縦のつながりを重視した指導法

・「西部型授業」の学習過程に沿った授業実践として、以下の「必須5項目」を確実にやっていく。

① つかむ ②見通す ③考える ④学び合う ⑤ふり返る

・校内研究の研究主題である「自分の考えをもち、豊かに学び合う児童の育成～子どもの思考を可視化させる指導の工夫～」をもとに、表現力に焦点を当てた実践に取り組んでいく。

2 児童の表現活動を重視した指導法

・ICT等を活用して、自分の考えを表現する場の設定に努める。

・児童が自分の考えを表現する手立てとして、式・文・図・学習用語を使った書き表し方、話型を使った表現方法を適宜指導していく。

・理由や根拠（条件）をもとに、読む・書く・話せるような学習活動を仕組んでいく。

3 教科における具体的な指導法

・板書を全校で統一し、授業の流れがノートに残る板書を心がける。

・「なぜ?」「どうして」と思えるような課題提示の工夫を行う。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

1 学力向上対策研修会の実施

夏季休業中に、全国学力調査・県学習状況調査の結果分析から、本校の課題を見つける研修会を行った。その後、改善策について話し合いをもち、全職員で以下のことを共通理解した。

① これからの共通した取組

～上学年グループ～

○ 「なぜ」が言える雰囲気作り 授業作り

○ 理由・根拠（条件）をもとに、読む・書く・話せる子どもにする→3Rの徹底

～下学年グループ～

○ 基礎・基本の定着

○ 体験活動の重視

② 個人としての具体的取組

・自分が所属する学年グループの取組に関連した取組を各自決定した。

③ これからに向けて

・決定した取組を、全員で、継続し、徹底していく。

・取組の状況を定期的に振り返るようにする。

2 家庭学習の充実

家庭学習の質的改善を目指して、宿題（作文）で条件を与えることや、自学ノートの取り組み方の確認をした。

3 補充指導

朝の時間や放課後に、能力に応じた個別指導を行っていく。